

1 研究テーマ

「学校図書館を中核とした教育活動」

～学校図書館と国語科の関連を図った学習展開と司書教諭の役割～

2 はじめに

平成15年4月から司書教諭の配置が義務付けられた。鳥取県では配置義務のない小規模校も含め県内の全公立学校に司書教諭が配置された。これは、本県の学校図書館によせる期待を物語っている。

そこで今回、司書教諭がどのように学校の教育課程に寄与すればよいのか、児童の学習にどのようにかかわっていけばよいのかなど司書教諭の役割について研究を深めたいと考えた。さらに、国語科に学校図書館の活用を取り入れた学習展開を図り、どうすれば自分で調べ、自分でまとめるという主体的な学びの基礎的・基本的な力をつけることができるのか具体的な方策を研究することとした。国語科で身につけた主体的な学びの基礎的・基本的な力は、他のいろいろな教科や総合的な学習などだけでなく、日常生活のあらゆる場面でも生かされ、本当の「生きて働く力」になるのではないかと考える。

3 研究の概要

(1) 研究の目的

- ・ 学校図書館を活用した国語科における展開例の作成
- ・ 司書教諭が学習支援に関わる際、参考となるブックリストの作成

(2) 研究の仮説

- ・ 学年に応じた身につけるべき情報活用能力を明確にした学年別図書館活用年間計画を作成すれば、子どもの「学ぶ力」を系統的に高めることができる。
- ・ 教材別ブックリストを整備すれば、司書教諭が学習を支援しやすくなり、授業が活性化される。
- ・ 国語科と学校図書館とを関連付けた学習展開を行えば、他の教科や日常生活でも自ら学ぶ態度が生かされる。

4 本研究の内容

(1) 学校図書館の役割

- ・ 読書センター
- ・ 学習情報センター
- ・ 教材情報センター

今、主体的な学びを支えるものとして重視されている。

(2) 学校図書館の利用指導

学校図書館の利用指導とは「児童生徒に図書館および資料の利用法を習得させることにより、主体的に学習する能力を育成する指導」(全国学校図書館協議会『学校図書館ABC』より)。今の学習指導要領に求められている「生きる力」の育成において主体的な学習の基礎になる能力を培うものとして必要不可欠な指導であると言える。

(3) 司書教諭の役割

- ・ 子どもが満足する学びを支援するコーディネーター
- ・ 教師と図書館をつなぐコーディネーター
- ・ 地域と学校をつなぐコーディネーター

(4) 国語科における司書教諭のかかわり

説明文では・・・

- ・ テーマの絞り方
- ・ 調べ方、まとめ方の支援
など

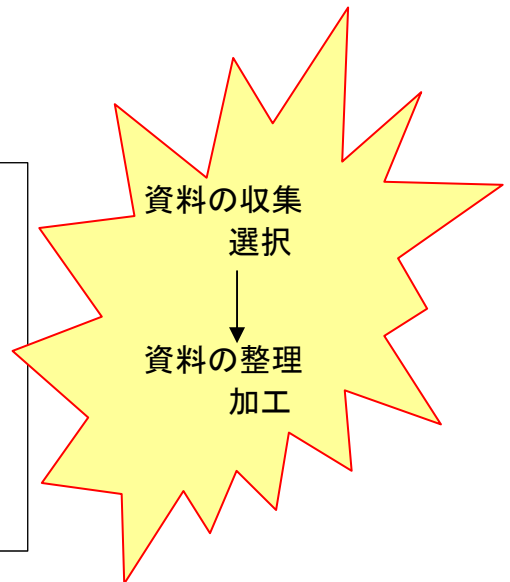
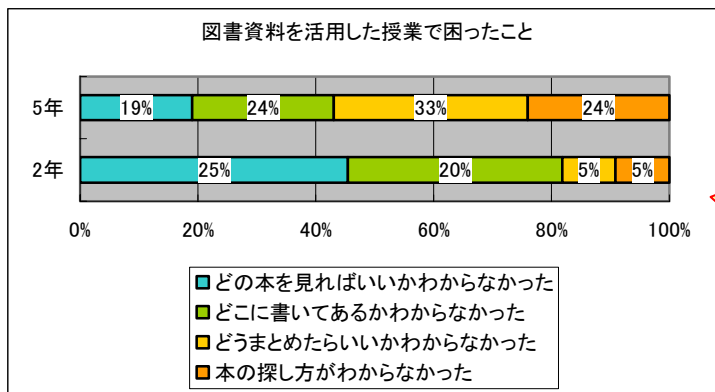


読書教材では・・・

- ・ 読書の広がり(読み聞かせ、ブックトークなど)
- ・ 読み比べによる授業展開
- ・ 感想文、読書郵便、ブックガイドの書き方
- ・ 読書記録のつけ方
- ・ 本の帯の作り方
- ・ 読書発表会の開き方 など

5 検証授業の展開

＜事前調査＞（A小学校2年、5年実施）



(1) 2年「ビーバーの大工事」(説明文教材)

観点①適切な情報、資料の提供



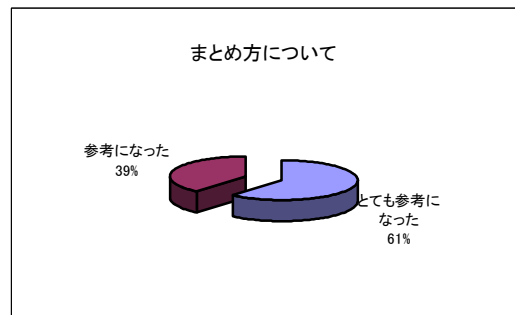
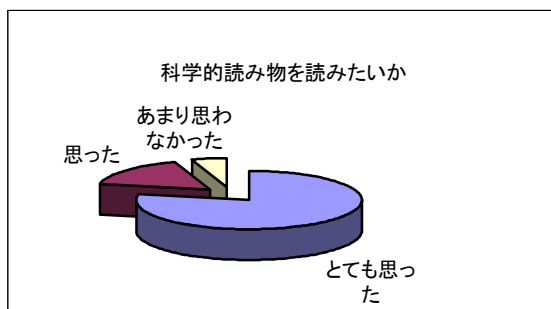
観点②資料の利用方法の指導

- ①大切、驚いた、びっくりのところに付箋をしながら読む。(情報収集)
- ②より価値の高いものを選ぶ。(情報選択)
- ③抜き出す。(情報整理)
- ④クイズにする。(情報加工)
- ⑤クイズブックを作り、クイズ大会をする。(情報発信)

ビーバーの生態がよくわかる
写真を資料として用意。**アニメーション**の手法を参考にして
場面わけを行いました。

観点③調べ学習のための「学びの手引き」の作成

＜授業後のアンケートから＞



新聞、パンフレットも重要な
資料になるよ。司書教諭は
普段からそれらをファイリン
グしておこう！

(2) 5年「マザー・テレサ」(読書教材)

観点①適切な情報、資料の提供

- ・「マザー・テレサ」に関する新聞記事の収集…県立図書館の縮刷版の活用

観点②知的好奇心の喚起「ブックトーク」

- ・本文の学習後の読み広げでは、子どもが自分から読んでみたいと思うような働きかけが必要。
- ・その手段としては…読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトークなど

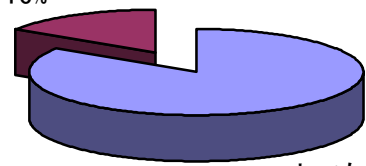
今回は「ブックトーク」



20分間で、6冊のノンフィクションや伝記を紹介しました。

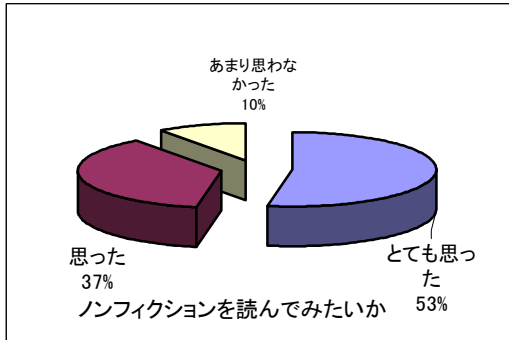
その効果は・・・

参考になった
16%

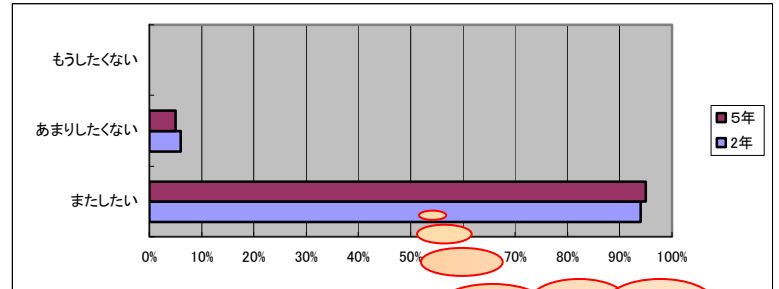


とても参考になった

観点③情報の整理「読書メモ」、発信「おすすめリスト」



思った
37%
ノンフィクションを読みたいか
とても思った
53%



司書教諭との授業をたくさん
さんの子どもが楽しみに
しているよ！

6 研究のまとめ

- (1) 「資料・情報を活用する学び方の指導体系表」「読書指導の体系表」をもとにした「学年別図書館活用年間計画」の活用は、自分で調べ、自分でまとめて伝えるという一連の学びの力を6年間で育成するのに有効である。
- (2) 司書教諭とのチーム・ティーチングは子どもの学びの欲求に応える授業を構築する。
- (3) 教材別ブックリストは、学習を深め、より発展させていく上で大変役に立つ。
- (4) 担任兼務の状況では、年度当初に学年ごとの重点単元を決め、どの学年の授業にも関わることが大切である。また、他校の司書教諭と連携を密にして、調べ学習が重ならないように調節し、資料の共有化を図ることが大切である。

7 今後の課題

- (1) 他教科や日常生活への支援
- (2) 情報教育と学校図書館との関連
- (3) 教育センター図書室を県内教職員のための教材情報センターへ

8 自作資料

- ・ 資料、情報を活用する学び方の指導体系表
- ・ 読書指導の体系表
- ・ ブックトークのための参考図書
- ・ 国語科における学年別図書館活用展開例
- ・ 教科書関連ブックリスト
- ・ 授業参考図書一覧
- ・ 調べ学習に活用したい図書一覧

9 おわりに

学校図書館をいかに教育課程に位置づけ子どもの学びを保障することができるか。司書教諭としてどのように授業に関わるか。一年間の研修でそのすべてを知り尽くしたとは言えない。しかし、子どもたちが授業で見せたあの笑顔と真剣なまなざしは、学校図書館や司書教諭が教育を変えていく可能性を確かなものとした。今回の研修で学んだことを今後の実践に生かしたい。